

第6回 定例ワールドカフェ (4/16) 感想 (2022.6.20 現在)

話題提供：福祉現場で働く助産師からみえること一産前・産後母子支援事業の実践から—

提供者：藤岡果林さん (大念仏寺社会事業団 ボ・ドーム ダイヤモンドルーム／愛染橋病院
／大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科社会福祉学分野 M4)

当日参加者：12名

感想 (Google Form) 回答者：3名 (分野_医療2名、福祉1名)

- ・ダイヤモンドルームの紹介と藤岡さんの福祉・医療それぞれの立場でのご活躍のお話、とても興味深く聞かせていただきました。「社会的な先入観」や「社会的ハイリスク」というフレームで、母親たちは専門職からあらさがしをするようにアセスメントされている…というメッセージにとっても共感しました。生活の場の中で目の前にある困りごとの本質を母親と一緒に見極めて寄り添う支援が大切だと感じています。第2弾もあったらいいなと思います！貴重なお話をありがとうございました。
- ・途中からになってしまい、とても残念でした。昔保護課にいた頃に藤岡さんが所属されている施設に、母子をお願いしようと思い合わせさせていただいたのではないかと、お話を伺いながら思い出していました。本来の感想を……ざっと流されていましたが、教育にかかわる部分は本当におっしゃる通り！！と肌で感じていました。もっといろんな立場の人に「なぜできないのか」ということを理解してもらうことが、たくさんのことを拾っていけることになると思います。草の根で知っている人が少しづつでも広めていきたいですね。
- ・対象者に寄り添うとは具体的にどこまで深く、きめ細やかにするのかを考えさせられました。実践している藤岡さんならではのお話を伺えてとても勉強になりました。医療や教育、保健行政での現時点での実際は、リスクの高い親子を「死なせない」ことが最優先で(もちろん)、リスクアセスメントとその支援で手一杯な状況です。専門家の数や質、仕組みのせいで、リスクのものさしに引っかかった傷つく親子を生み、ものさしに引っかからない親子がこぼれる…、支援者もそうしたいわけではないのに、現状親子はそのような状況に置かれる…。医療や教育、保健行政それぞれの持場で、藤岡さんが伝えてくださったことを消化して、できることを考えていきたいと思いました。ありがとうございました。